

単施設研究用

進行喉頭癌の所属リンパ節における CD1a 陽性樹状細胞浸潤の意義の解明

1. 研究の対象

2000 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日の間に佐賀大学医学部附属病院で喉頭がんの外科切除を行った患者さんの中で、術式として喉頭全摘または喉頭部分切除およびリンパ節郭清が施行された、喉頭がんの患者さんが対象となります。

2. 研究目的・方法・期間

本邦の喉頭がん罹患数は、頭頸部領域では甲状腺がんに次ぐ頻度で、早期喉頭がんの 5 年生存率は 80%を超えますが、進行期(Stage IV)の 5 年生存率は、放射線化学療法を行っても 50%を下回っています。

樹状細胞は「抗原提示」という免疫応答において非常に重要な役割を担う細胞です。この樹状細胞をがんの治療に応用しようと、これまでに樹状細胞を応用したワクチン療法が多く試みられてきましたが、樹状細胞のがん組織中の役割については、未だ不明な点が多く、未だがん治療に対する有効性は確立されていないのが現状です。

CD1a は未熟樹状細胞のマーカーとして知られており、この CD1a 陽性樹状細胞が多数浸潤している患者さんは、長期生存が期待できるという研究結果が、いくつかの固形がんを対象とした研究論文で報告されています。しかしながら、喉頭がんではがん組織への CD1a 陽性樹状細胞の浸潤が、必ずしも長期生存に結び付く訳ではないことが報告されており、これまでに私共が行ってきた研究でも同様の結果でした。

樹状細胞の成熟にはリンパ節が重要な役割を担っていると考えられています。この研究の目的は、喉頭がん組織だけでなく、所属リンパ節における CD1a 樹状細胞の浸潤状況を病理学的に検討することで、その臨床的意義を明らかにすることです。この研究の成果は、進行喉頭がん患者さんにおいて、CD1a 樹状細胞をターゲットにした免疫療法の開発の際に、有用な知見となるものと期待されます。

本研究の研究期間は当院研究実施許可日より 2025 年 3 月 31 日までの間としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる試料は・情報は、病理部で保管している喉頭がんの切除標本検体、病理学的所見、CD1a, S100 の免疫染色の結果、患者 ID (情報管理に使用)、および電子カルテに保存されている診療情報: 年齢、性別、治療歴 (治療内容、治療効果)、生存期間です。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、情報等が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の
方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出くだ
さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

〈照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先〉

住 所 ; 〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
佐賀大学医学部附属病院 病理部・病理診断科
担当者 ; 病理部・病理診断科 准教授 甲斐 敬太 (研究責任者)
TEL ; 0952-34-3264, Fax; 0952-34-2055
E-mail ; kaikeit@cc.saga-u.ac.jp

【この研究の試料・情報の取扱い】

倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした情報等には個人を識別できな
いよう処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講
じたうえで取り扱っています。

このお知らせは当院の研究実施許可日より 2025 年 3 月 31 日までの間、研究対象となる患
者さんへの公表を目的に、佐賀大学医学部附属病院臨床研究センターホームページで掲載
しているものです。

臨床研究センターHP:<http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/chiken/>

なお、この研究内容は、佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会で審査を受け、
研究機関の長の許可を受け実施されています。臨床研究センターHP では、佐賀大学医学部
附属病院臨床研究倫理審査委員会に関する他の情報等も公表していますのでご覧下さい。